



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

宮城県 気仙沼市立鹿折中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
 オリンピアン自身の様々な経験を通して  
 「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
 この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
 日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

## 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
 チームワーク、フェアプレー、身体を動かす  
 ことの楽しさ等を感じてもらいます。



## 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた  
 オリンピックの価値を生徒に伝え、  
 オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：矢代直美先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■期 日：2024年11月7日(木)

■クラス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



アテネ2004大会にバスケットボール競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、ルールを守り、仲間と協力して、全力で取り組んでほしいと伝える。準備運動として、体を使ったじゃんけんを実施した後、2人組で向かい合って立ち、中間地点にバスケットボールを置き、先生の掛け声にあわせて指定された体の部位を触り、ボールや頭の掛け声で素早くボールを取り合うボール取り競争を実施した。

○主運動等



主運動は、シュート競争を実施(全3回)。各班バスケットボールを2個持ち、3ヶ所のゴールにシュートする。シュートを打つ場所(ゴールからの距離)により色の異なるマーカーを置き、シュートが成功したらその場所のマーカーを持ち帰る。シュートが成功しても失敗しても1回シュートしたらスタート位置に戻り、次のメンバーにボールを渡す。各マーカー(難易度)により得点(青3点、黄2点、赤1点)が異なり、制限時間内に獲得した合計点を競う。



運動の時間を振り返り、シュート競争では、各班メンバーの特長に合わせた作戦を考えて工夫して取り組んでおり、授業冒頭に伝えた、ルールを守り、仲間と協力して、全力で取り組むという目標が達成できていた。次の座学の時間では、オリンピックバリューについて、皆の身近な日常生活にも当てはまるということや、運動の時間に体験したことを思い返しながら確認していくので、感じたこと等を整理しておいてほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：矢代直美先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■期 日：2024年11月7日(木)

■クラス：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



アテネ2004大会にバスケットボール競技で出場したと改めて自己紹介し、同大会で着用したユニフォームを披露する。オリンピックバリューについて、現役を引退した今でも大切にしていると説明。小学生の頃は控え目な性格であったが、中学生になり、担任の先生が、クラス対抗行事があると生徒同士で改善点を出し合い、常に全力で学年1位を目指そうと目標を掲げていた。こういった取り組みの積み重ねがきっかけになり、徐々に自らも積極的に行動するようになり、その経験がオリンピックに繋がった。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：学校生活やクラブ活動の目標、将来の夢のために何ができるかをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「苦手なことも諦めない」「失敗を次につなげる」「自分の個性を見つける」「プラス思考で乗り越える」等

フレンドシップ：「お互いを理解する」「仲間の良いところ、得意なところを見つけて伝える」「仲間を大切にする」等

リスペクト：「必ず感謝を伝える」「人を幸せにする」「友達を尊重する」等



グループワークで発表してくれた内容はどれも素晴らしいものであり、次はこれらを行動に移してほしい。何気ないことでも行動する際には恥ずかしさや照れくささを感じることもあるかも知れないが、取り組んでみると意外と簡単にできてしまうこともある。中学校の先生がきっかけで、自ら行動し、その後の人生が変化した。皆も行動に移すことで日常生活やこれからの人生がより豊かになる可能性を秘めているので、沢山のことに挑戦してほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：矢代直美先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■期 日：2024年11月7日(木)

■クラス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



アテネ2004大会にバスケットボール競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、仲間と協力しながら全力でチャレンジしてほしいと伝える。準備運動として、左右片手ずつ各5回、先生とじゃんけんで対決した後、2人組で向かい合って立ち、中間地点にバスケットボールを置き、先生の掛け声にあわせて指定された体の部位を触り、ボールや頭の掛け声で素早くボールを取り合うボール取り競争を実施した。

○主運動等



主運動は、すごろくシュート競争を実施(全3回)。各班バスケットボールを2個持ち、2班と3班に分かれ、片側各1ヶ所のゴールにシュートする。シュートが成功したらセンターライン上に等間隔に置かれたマーカーの端から自分の班の駒(ピズ)を1つずつ進める。シュートは成功しても失敗しても1回シュートしたら自陣に戻り、次のメンバーにボールを渡す。駒の順位により得点を付与し合計点を競う。3回目はシュートが成功したら自班の駒を1つ進めるか、他班の駒を1つ戻すかを選択可能とした。



運動の時間を振り返り、授業冒頭に伝えた、仲間と協力して、全力でチャレンジするという目標が達成できていた。さらに楽しんで取り組んでいたことも含めて、全てがオリンピックバリューに当てはまる。この3つの価値は皆の普段の生活の中でも取り組むことができるくらい身近なものであり、次の座学の時間では、その点について一緒に考えていこうと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：矢代直美先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■ **期 日**：2024年11月7日(木)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



アテネ2004大会にバスケットボール競技で出場したと改めて自己紹介。チームスポーツであるバスケットボールでは、試合で何点取れば代表になれるという基準ではなく、チームとして必要な様々な能力を兼ね備えている選手が選考される。仲間の言葉がきっかけとなり、リバウンドと言えば自分の名前が出るくらいに究めることを決意して努力を重ね、5年連続リバウンド王となり、代表に必要とされる選手に成長することができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：学校生活や部活動での目標や将来の夢のために何ができるか、オリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「失敗を怖がらずに挑戦する」「勉強して得意を伸ばす」「努力し自信を持つ」「全力でベストを尽くす」等

フレンドシップ：「チームワークを大切にする」「仲間を思いやる」「声を掛け合う」「お互いに認め合い思いやる」等

リスペクト：「相手や仲間に感謝する」「ルールを守る」「当たり前なのに感謝する」「仲間とのプレーに感謝」等



皆がグループワークで発表したことを今後どう取り組んでいくか、どう表現していくかが大切である。中学校の先生がきっかけで、自ら行動し、その後の人生が変化することでオリンピックに出場できるまでに成長することができた。中学生の皆には無限の可能性があり、オリンピックバリューを意識して行動することで、10年後、20年後に大きく変化する可能性を秘めている。自分の可能性を信じ、諦めずすぐに行動することに挑戦してほしいと話し、授業終了。

■修了証贈呈

